

治水の森公園作り事業の植樹行事が、11月3日は天候にも恵まれ、老若男女61名のボランティアにより現地で行われ無事計画通り植樹することができました。皆様お疲れさまでした。

治水の森公園の概要→公園は上野敏孝さん（当NPO理事）の所有地、約6,000平方メートルの内、約2,500平方メートルを今年4月に県から**森林フィールド認定**、今回は、**770平方メートル**を事業に応募し7月に採択されました。県民の皆様がたからの**緑の羽根募金**の補助で運営しています。実際、木を植えられる面積は**500平方メートル**です。

当日は植樹の指導者をお招きしました。

寺田仁志先生：現在県立埋蔵文化財センターの所長でいらっしゃいます。文化庁の非常勤調査員をされており、県内の植物生態、とくに、最近多くの天然記念物指定に先生の尽力によります。新聞マスコミ等で大きく取り上げられています。植樹の意義等につきましてお話を伺いました。

外山好美先生：グリーンサプライきりしまの代表者で、宮脇方式植樹の実践者です。当NPOの鹿児島市で初めて行われる本格的な宮脇方式植樹の運動に賛同され、多大な苗やワラ等の提供を受けるとともに植樹技術のノウハウの支柱となっていました。

植樹する苗は1,523本の苗を準備しました。昨年春に植えた苗はまだ小さいので、すべてグリーンサプライきりしまの苗を充てました。昨年春に植えた苗は来年以降に植えていきます。1トレイには約20本の苗が入っています。1平方メートルに3本で、約7平方メートル分となります。1メートル四方を想定して、60センチメートルの正三角形をその中に作るように植えるとそのようになります。

公園の上の方は大きくならない木、中程は昆虫が集まる森という風に考えています。

当日の様子です。



実物を持っての寺田先生の講義に熱心な受講生も。
外山先生の植樹実践の講義から植樹が始まりました。





